

仙台市×東北大学スーパーシティ構想シンポジウム

ーキャンパスから未来都市が広がるー



開催報告書

◆開催目的

本市では先端テクノロジーに関して高い技術を有する東北大学と連携し「仙台市×東北大学スーパーシティ構想」を取りまとめ、4月16日にスーパーシティ型国家戦略特区に応募している。スーパーシティ構想とは、AIやビッグデータなどの先端テクノロジーを活用し、未来の生活を先行実現するものである。

本構想では、東北大学の青葉山キャンパスを中心とした各キャンパスの区域において、エネルギーやヘルスケア、モビリティなど5つの領域でサービス実装を目指しており、本構想について広く市民の方々に知っていただくこと、また理解を深めていただくことを目的として、オンラインシンポジウムを開催した。

- ◆名称 仙台市×東北大学スーパーシティ構想シンポジウムーキャンパスから未来都市が広がるー
- ◆日時 2021年6月12日(土)13:00~15:00
- ◆場所 東北大学 知の館(Youtubeオンライン開催)
- ◆当日視聴 約400名弱、事前登録約700名
- ◆主催 仙台市、東北大学 ◆共催 東北大学研究推進・支援機構 知の創出センター

時間	内容												
13:00	開会挨拶 郡 和子 (仙台市長)、大野 英男 (東北大学総長) 司会：富岡浩美												
13:10	基調講演 片山 さつき 氏 (参議院議員・元内閣府特命担当大臣(地方創生担当)) 「スーパーシティ構想について」												
13:35	仙台市×東北大学スーパーシティ構想発表 <table border="1"><thead><tr><th colspan="5">アーキテクト</th></tr></thead><tbody><tr><td> 仙台市長 郡 和子</td><td> 東北大学理事・ 副学長 青木 孝文</td><td> (株)ブロードバンドタワー代 表取締役会長兼 社長CEO 藤原 洋</td><td> (株)巻組 代表取締役 渡邊 享子</td><td> (株)サイバー・ソリューションズ 代表取締役社長 KEENI Glenn Mansfield</td></tr></tbody></table>	アーキテクト					 仙台市長 郡 和子	 東北大学理事・ 副学長 青木 孝文	 (株)ブロードバンドタワー代 表取締役会長兼 社長CEO 藤原 洋	 (株)巻組 代表取締役 渡邊 享子	 (株)サイバー・ソリューションズ 代表取締役社長 KEENI Glenn Mansfield		
アーキテクト													
 仙台市長 郡 和子	 東北大学理事・ 副学長 青木 孝文	 (株)ブロードバンドタワー代 表取締役会長兼 社長CEO 藤原 洋	 (株)巻組 代表取締役 渡邊 享子	 (株)サイバー・ソリューションズ 代表取締役社長 KEENI Glenn Mansfield									
14:10	経済界からのコメント・メッセージ紹介 アイリスオーヤマ(株) 代表取締役会長 大山 健太郎 氏 東北電力(株) 取締役副社長 副社長執行役員 岡信 慎一 氏												
14:50	パネルディスカッション 2030年に向けた市民×大学×ビジネス「未来都市ショーケース」の実現の先に <table border="1"><thead><tr><th colspan="5">パネリスト</th><th>モデレーター</th></tr></thead><tbody><tr><td> 東北大学理事・ 副学長 青木 孝文</td><td> 東北大学総長 大野 英男</td><td> 仙台市長 郡 和子</td><td> 参議院議員・元内閣 府特命担当大臣 片山 さつき 氏</td><td> (株)ブロードバンドタワー 代表取締役会長兼 社長CEO 藤原 洋</td><td> NPO法人都市デザイ ンワークス 代表理事 榎原 進</td></tr></tbody></table>	パネリスト					モデレーター	 東北大学理事・ 副学長 青木 孝文	 東北大学総長 大野 英男	 仙台市長 郡 和子	 参議院議員・元内閣 府特命担当大臣 片山 さつき 氏	 (株)ブロードバンドタワー 代表取締役会長兼 社長CEO 藤原 洋	 NPO法人都市デザイ ンワークス 代表理事 榎原 進
パネリスト					モデレーター								
 東北大学理事・ 副学長 青木 孝文	 東北大学総長 大野 英男	 仙台市長 郡 和子	 参議院議員・元内閣 府特命担当大臣 片山 さつき 氏	 (株)ブロードバンドタワー 代表取締役会長兼 社長CEO 藤原 洋	 NPO法人都市デザイ ンワークス 代表理事 榎原 進								
14:55	総評 片山さつき氏、郡市長												

開催報告書



開会あいさつ

郡 和子 仙台市長

仙台市では、誰もがデジタル化の恩恵を受けられ、ワクワクするようなスマートシティを目指すこととして、DX・デジタル化を進めている。その中でも最先端技術の社会実装により「まるごと未来都市」のスーパーシティを実現するため、大学と連携しキャンパスをショーケースとして、最先端技術に触れていただくことにより、市民の方々の理解を得ながら市内へ展開していくことを目指している。



大野 英男 東北大学総長

東北大学は初めの指定国立大学法人であり、社会課題解決の貢献、社会変革を先導する存在として、変化・挑戦を続けている。スーパーシティ構想のテーマ「市民×大学×ビジネス」の協働による都市のトランスフォーメーションを先導すべく、仙台市と東北大で一丸となって取り組む。



基調講演 「スーパーシティ構想について」

片山 さつき 氏 (参議院議員・元内閣府特命担当大臣(地方創生担当))



- ・国が率先して創ったスーパーシティ構想は、日本の成長戦略を次のステージにあげるため、必須である規制改革、つまり国家戦略特区にまちづくりの概念を入れ、住民に生活が便利になったことが分かるようにした構想。
- ・従来の国家戦略特区では各省庁の個別協議に時間を要してきたが、スーパーシティでは、横連携・全体最適の概念で一括で行う。日本は全体構想をまとめるアーキテクト人材が不足している、計画が全体最適であれば、スピード・合理性は図られるもの。
- ・これからは、「データはすべて連携できる前提でなければならない」と決めた初の法律がスーパーシティ法で、これは村井純氏、特区有識者の坂村健氏も主張。すべてオープンクラウドでアプリを作った後、アジャイルに入れ替えなければ、今後、世界のDXマーケットで勝てない。
- ・スーパーシティ構想は、SDGsとDXを合体させた発想。DXに反対するのは取り残される心配のある方、変更前に既得権のある方々である。しかし、スーパーシティは最大多数の最大幸福に進んでいくために、誰一人取り残されることのないSDGsの思想がベースであり、オプトイン(やりたくない人はやらない)思想である。
- ・デジタル競争力ランキングで日本は人材のデジタル技術スキルは低迷し62位/63位、日本は大学を含めて遅れをとっており、今後5年で官民175万人のデジタル人材を育成したい。文理共通でデジタル人材の育成が必要であり、このスーパーシティ構想で実装の場が創出できれば、強さは飛躍的に上がる。仙台と東北大学のまるのりプロジェクトの現場で経験が磨かれるよう、ぜひ仙台に頑張っていたいただきたい。期待している。

仙台市×東北大学スーパーシティ構想発表

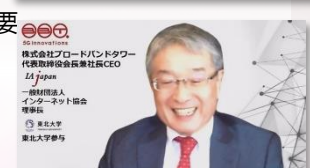
郡市長 仙台市は首都圏に年間約14,000人が転出する傾向。多様なバックグラウンドを持つ市民が、活躍できる場としてスーパーシティを創り上げ都市のイノベーションを起こす。

青木 孝文 (リードアーキテクト/東北大学理事・副学長)

- ・本構想は、市民×ビジネスに加え、大学がしっかり入っていることが大きな違い。大学には研究者、ダイバーシティな留学生等、市民の皆さんの水先案内人になれる人材が豊富。
- ・震災10年で地域と科学技術の交点が急速に拡大した今、東北大を活かしサービスの需要者の市民が体験し参加をしながら、イノベーターとなり横連携しながら価値を生む構想。

藤原 洋 (アーキテクト/㈱ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長CEO)

- ・本スーパーシティ構想の海外連携の可能性として、最先端デジタル都市を実践し一人当たりGDP伸び率が高いフィンランド(特にヘルシンキ)、イスラエル、エストニアとは連携の可能性はある。特に6G(Beyond5G)、MaaS、健康福祉の分野は先進的であり、仙台市にふさわしく、私も連携の実現に協力したい。



仙台市×東北大学スーパーシティ構想発表

渡邊 享子 (アーキテクト/㈱巻組 代表取締役)

- ・スーパーシティを東北で行う意義として、TechとSDGsを合わせるには、市民エンゲージメントで、人間中心の都市デザインを考える必要性がある。これまで復興のため県全体でハード・インフラ整備に約76億円が投入されてきたが、これから市民幸福度を高めるためにも、市民参加型のまちづくりをする必要があり、尽力したい。



KEENI Glenn Mansfield (アーキテクト/㈱サイバー・ソリューションズ 代表取締役社長)

- ・スーパーシティ構想に必須の、「技術」と「データ」を支えるためには「セキュリティ」を盤石にすることが重要。立法制度の設計に加えて、次々に現れるサイバー攻撃に耐える技術、安全性の確保、セキュリティを自律的に身に付ける人材育成が必要。
- ・市民セキュリティ、脆弱性の少ないインフラサービス、インシデントへの対応の備えが重要となる。



経済界からのコメント・メッセージ紹介

アイリスオーヤマ(株) 代表取締役会長 大山 健太郎 氏:ソフトバンクとロボット合併会社を設立。除菌配膳ロボに加えて、今後は物流ロボ開発に向け、ぜひ東北大学と連携して行いたい。

東北電力(株) 取締役副社長 副社長執行役員 岡信 慎一 氏:東北発のスマート社会の実現に向け、次世代エネルギーのパッケージ販売、サブスクを始めた。最先端サービスを東北全域その先へ届けカーボンニュートラルの実現といった、スーパーシティ構想と目指す方向は同じであり、ともに頑張りたい。



パネルディスカッション

2030年に向けた市民×大学×ビジネス「未来都市ショーケース」の実現の先に

モデレーター: 榊原 進 (NPO法人都市デザインワークス 代表理事)

- ・イチ市民の視点で、スーパーシティ構想が、経済成長、豊かな暮らしの実現、SDGsとも親和性が高く、誰も取り残されることのない社会を目指すものということが分かった。

片山さつき氏

- ・今日改めて、東北大キャンパスの大きさ、広さ、グリーンフィールド感を再認識した。サイエンスパークや放射光施設などの新たな研究拠点が出来ることは大変ユニークであり、さらに大学のリーダーが参画している点は強みと思う。また、ロボット構想が具体的なサービスとなる点も民間投資を生んでいくと考える。
- ・キャンパス内であれば同意も得やすく、ダイナミックな実験都市となるのでは。その点ではトヨタのウーヴン・シティに近いことができる上に、大学法人の土地であり公共の利益にもなりうる。とても面白い展開が期待できる。



青木リードアーキテクト

- ・まさに「アジャイル」は大学をあげて進めている。構想への市民アンケートも前向きな意見が多く驚いたほどで、期待ができる。仮想IDを使って点で存在している抱負なバックグラウンドを持った社会起業家を、スーパーシティのデータ連携で結び付けたい。

藤原アーキテクト

- ・連携都市として挙げたフィンランド、イスラエル、エストニアは大学が街を担っており、今後デジタル時代、高度知的都市を目指していくには、高度人材と大学の存在が必須。生産性(ホワイトカラーと現場)の向上も必須であり、それにはセンサーやAIの力が必要。社会が常時センサー接続されている状態が望ましい。
- ・これからは企業的なBCPから、BRP(ビジネスレジリエンスプラットフォーム)が重要。仙台市は震災の経験もあり東北大の英知もあり、BRP実証都市としてレジリエントを目指す街に最適。スーパーシティになれば、市民の生活が便利になり、セキュア(データの管理トラッキングができて、安全性が向上)になる利点がある。



パネルディスカッション

2030年に向けた市民×大学×ビジネス「未来都市ショーケース」の実現の先に

大野東北大学総長

・東北大のDX化は割と早く、文理ともにAI授業を必修にしている。放射光施設は桁違いのデータが出るため、DX化が迫られている状況。もはや大学は狭い意味での大学ではなく、大学は知識集約の場、市民の中に溶け込ませる場、集まっていただく場、実践の場である。



片山さつき氏

・大学のDX事例だけでは、デジタル人材175万人の目標には足りない。日本では、女子は医者以外ではつぶしがきかない理由で文系に行く人は多い。スーパーシティ構想や産官学連携が進めば、理系女子、情報系の学生、DX人材も育つ。東北大の広大なキャンパスと、リケジョ・DX化を進めれば首都圏に出る必要はなくなる。東京一極集中の解決とQOLをこの街で創っていかねばならない。



・スーパーシティ構想はまさに、「ハッピーライフ」という人が幸せになるためのモデルを地域で考えてもらい、そのために必要な規制緩和は行い、初めてデータ連携の基本の構想を作ったもの。「人が幸せになるには」が、徹頭徹尾究極の目的。高齢化でQOLは今後落ちるため、人が健康に幸せに人生を送るためにテクノロジーを使い、アジャイルに対応していくことは必要。アカデミーである大学、市民、行政がオーケストラのようにひとつになって、今までになかった公共の仕事をして欲しい。震災後に初めて仙台を訪ねた際、再建にどれほどかかるのかと思ったが、こうして今、世界最先端の地域を目指している皆さんの強さ素晴らしさに脱帽、感動している。

郡市長

・東北大はまさに帝国大学で初めて女性に門戸開放した大学。コロナ禍で行政分野のDX化の必要性を感じており人を中心としたDXを進めていきたい。東北大の最先端技術、メディカルメガバンクでの未病への取組、フィンランドなど海外連携などで、人口減少が真っ先に進む東北地域を豊かにしていきたい。

藤原アーキテクト

・仙台の構想は改めて飛び抜けていると感じた。大学の抱える資産、経験値が時代と合っている。市としては住民満足度の向上が重要と思うが、東北大の持つデジタル技術とゲノムデータで、データに裏付けられたサイエンティフィックなwell-beingを実現できるのは、仙台市と東北大ならではのと思う。



大野総長・青木リードアーキテクト

・仙台市民のwell-being向上をデジタルツールを使って、トランスフォームしていく、その為に大学を使い倒してほしい。仙台で満足度をあげて、その輪を広げていきたい。
・まさに機が熟したと思っている。震災の影響もあり、社会と大学の科学が近くなり、他地域にはない特徴。仙台・東北地域の人の流入し大学も形が変わり、スーパーシティを始めるにはふさわしい時期。



総評

片山さつき氏：人口減や災害どんな状況でも、幸せにサバイブすることがスーパーシティの目標。骨太での方針では、スーパーシティを起点として日本中にスマートシティを広める方針が決まった。仮に仙台が選定されたら、皆さんのプロジェクトの先に、日本中の明るい未来がある。震災を乗り越え、明るい未来を切り開いているこの地域にエールを送りたい。

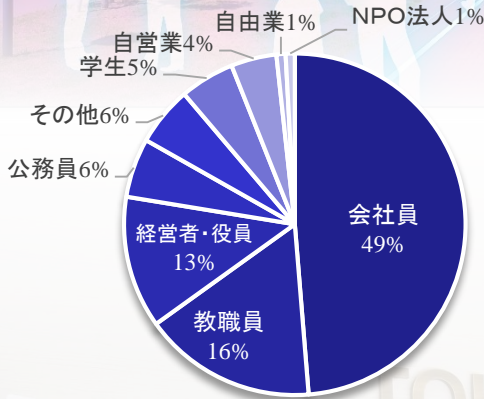
郡市長：スーパーシティを夢ではなく、現実にするため、市民の皆さんに参加いただきながら、東北大と「まるごと未来都市」を創り、そこに力を結集していきたい。震災を乗り越えたからこそその幸せな未来があると信じ、頑張っていきたい。



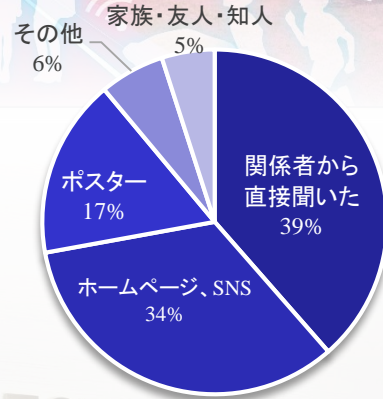
◆アンケート結果概要

事前登録約700名、当日視聴400名弱 うち回収数232名（回収率 約58%）

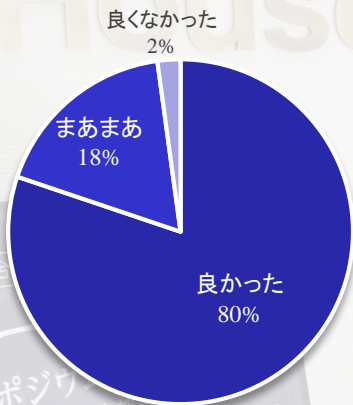
Q1.ご職業を教えてください。



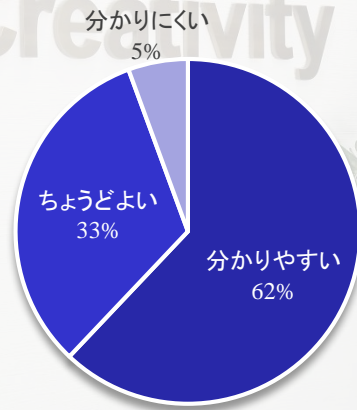
Q2. シンポジウムをどこで知りましたか。(複数回答 N=232)



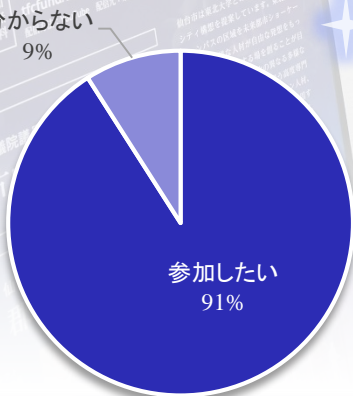
Q3. シンポジウムに参加して満足されましたか。



Q4. 今回のシンポジウムの内容は如何でしたか。



Q5. 今後このような企画があったら参加したいと思いますか。



開催報告書

Q6. 今回のオンラインシンポジウムについてのご感想がございましたらご記入ください(回答数140件)

Q7 仙台市×東北大学スーパーシティ構想についてご意見がございましたらご記入ください(回答数135件)

◆未来を感じた

- ・仙台市×東北大学のスーパーシティ構想の未来への可能性を感じ、ワクワクしました。
- ・非常に分かりやすく、ワクワクするシンポジウムでした。市民のQOL向上にむけ、このような取り組みについての情報発信を継続していただき、県民、市民が理解して、賛同して、協調して取り組みを行うような基盤を作っていただきたいと感じております。参加して非常に有益でした。
- ・色々な技術開発しても実際のテストや運用を出来る場が限られていたために実現できず他国に先を越されていた苦い経験を、この構想ではすることなく、多くのヒラメキが混ざって技術開発が可能になるのだと感じました。
- ・セキュリティに関して前に進む枷になる、後ろ向きな要素だと考えていたが、スーパーシティへのコミットメントの動機になっていくと期待を持てた。「大学を使い倒す」活動ができると、仙台市がさらに輝けるように感じた。
- ・仙台市民として、本日のシンポジウムで語られた幸福な未来都市の実現を大いに期待します。私たち自身のことでもありますので、一緒に参加しながら協力して参りたいと思います。最大の課題である規制緩和には、自治体の力が不可欠です。
- ・SDGsとスーパーシティ構想の関わり方が良く理解できた。他の地域と違い産官学の連携で東北大学がリーダーシップを発揮しているところが素晴らしく心強いと実感した。

◆活気があった

- ・予想していたよりパネリストが大胆な発言を行っており、非常に活気のある討論が行われて良かったと思います。ここまで大胆なことを言った以上、大学本部も仙台市もきちんとそのつもりで取り組んでいただけるものと信じます。
- ・オンラインでも、このような熱のある議論ができることに目からうろこでした。DXにより生活や社会が大きく変化していくことを感じました。
- ・片山議員が「リケジョ」に言及されたことが印象的でした。仙台市×東北大学の構想は勿論、片山先生の熱い想いが根底にあることもよく分かりました。
- ・DXは難解な用語が多く浅い理解ではありますが、片山さんの説明が非常にわかりやすくてスーパーシティの取り組みの意義とその先にある未来の絵姿が見えてきて、腹落ちしました。

◆市民として参加したい・応援している

- ・是非とも広くオープンに仙台市民が初期段階から参画し、主催者や企業の考えだけでなく草の根の住民レベルでの意見が反映されるよう、今後の同様なシンポジウムを企画頂きたい。
- ・具体的な展開はこれからと思いますが、重要性が非常によくわかったので、技術者としても一市民としても積極的に関わっていきたいと思います。
- ・仙台市民です。仙台の未来に夢と大きな希望が持て、大変感銘を受けました。また震災からの復興を経験した仙台だからこそスーパーシティを成功させられると信じています。微力ながら一緒に頑張らせてください。
- ・東北大学の学生ですが、仙台出身ではありません。この街をとて気に入っており、卒業後もこの地に住みたいと考えています。本構想に大変関心を持ちました。デジタルで生活がより便利に、豊かになる。東北大学が関わって、市民が参加する形でそれを実現するという構想に共感しました。仙台市はそのモデルにぜひなってもらいたいと思います。一学生として応援しています。

◆今後への意見

- ・今回のスーパーシティに選定されなかったとしても、是非市民が暮らしやすいWell Beingな街にすべく、市民一人ひとりが協力し合って街づくりを行っていただければと思います。
- ・市民を巻き込んで進めていくためには直接的なメリットもだが間接的・将来的(長期的)な視点に立った市民の行動が必要だと感じています。そのためには、仙台市が描く未来で市民個人がどのような道筋を描くのか、モデルケースの提示も含め想像してもらうことが重要だと思います。
- ・隣県山形在住です。東北大の極めて貴重な知財が集結し今後の期待が高まるとともに、東北他県が衰退していくのでは、と脅威に感じました。東北大で研究した優秀な学生が各県に戻り活躍してくれることも願います。
- ・今回の構想は大多数の市民は置いてけぼりになっているように感じる。他地域(スペインのバルセロナなど)の事例なども調べ、どのように市民と共に構想を進めていくのか、しっかり産学官連携で考えて欲しい。
- ・世界デジタルサミットではレジリエンスがフューチャーされており、コロナ禍で浮き彫りになった日本の改善、強化点と捕らえた。震災からの復興を経験した仙台市のレジリエンスをご紹介いただけるとより理解が深まるとともに仙台の強みを発揮できるのではないかと感じた。本日は大変すばらしいシンポジウム、有難うございました。
- ・プラットフォームの選定、スーパーシティの標準化の考え方、転入転出などの人のデータの扱いなど、今後課題になりそうな内容もYoutube討議してほしいです。
- ・ご関係者の生の声が聞けたことで、仙台市と東北大学が進めようとしている構想をよく理解することができました。第2弾、第3弾のシンポジウムを期待しています。